

早春？みぞれ降る猪高緑地散策会

加藤 誓(ちかい)

令和7年3月8日(土)は、みぞれの降る寒い日で、27名が傘を差しての「猪高緑地自然散策会」となった。

今年は、まだ花粉症にはなっていないが、塚ノ杵ヶ池の大杉が気になり写真を撮った。まだ花粉は飛んではない。ハンノキの古い雄花も道に落ちていたが花粉にはまだ早い。

ヤナギやガマズミ、ミツバツツジも芽の状態であり、1月には咲くスイセンは今が盛りであり、ビワの花も咲いたばかり、カワズサクラもまだつぼみの状態で、今年の里山に春が来るのは例年より2～3週間程遅い様だ。

そのためか、タンポポやオドリコソウなど、春の花を探すがなかなか見つからない。

日当りの良い井堀の棚田でやっと、オオイヌノフグリ、タネツケバナの小さな花を見つけ、枯れ葉に隠れている小さなセリを見て、ほんの少しだが春が近づいているのを知ることができた。

登り径の脇に、葉の下に赤い実が垂れるマンリョウを見つけた。因みにセンリョウは葉の上に実を付ける。

また赤い実を見つけた。「これは中に棲みついた虫のため、実が変形したもので、通称アオキの虫こぶといえます。」とスタッフの方が教えてくれた。

また、スタッフの方には、浅い池の底にいたニホンアカガエルの卵を手にくって見せてもらい、また用意してくれていた珍しいメジロの巣も見せてもらい感謝、感激！

去年の散策会で有名になった「キノコ博士ちゃん」が今年も参加していた。

「このキノコは、何？」と聞くと「カワラタケです。」「これは？」「それも同じで、七面鳥のしっぽとも言われています。」4年生になり、落ち着きができたのか静かにホウロクタケやヒイロタケも教えてくれた。

散策の小径は、「払っても、払っても女房についてゆく初老の亭主」に例えられる「濡れ落ち葉」でぎっしり。滑らない様に足元を見ながら進むと、大きなカシワの葉や「グーチョキパーの葉」で知られるカクレミノの葉などを見付けることが出来た。

みぞれから、小雨となった。

帰宅後、関東は雪とのニュースであるが、この天気が早く、大船渡市に移り山火事が鎮まることをただ祈るばかりである。



塚ノ杵ヶ池の大杉



令和7年ヤナギ



ガマズミの芽



ハンノキの古い雄花



令和5年ヤナギ



ミツバツツジの芽

